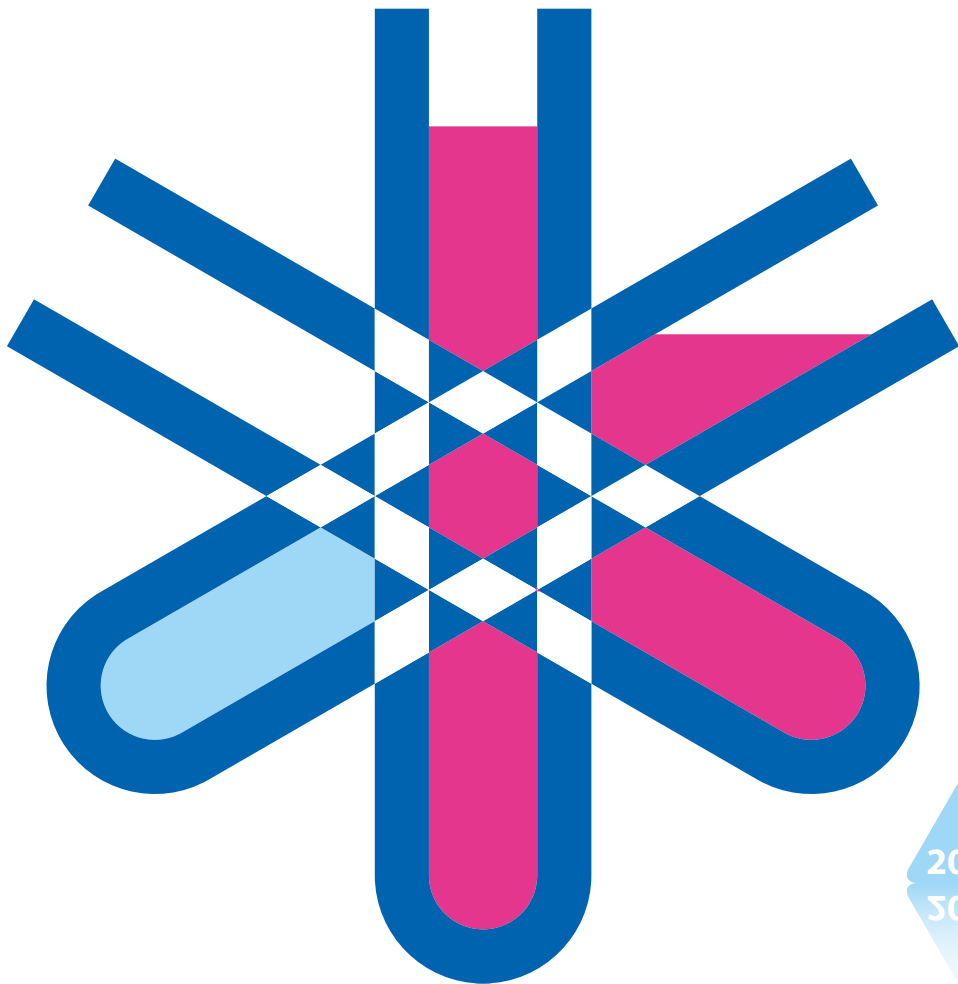


横查情報月報



横浜市衛生研究所

令和6年5月号 目次

【検査結果】

食品中の異物検査結果（令和5年度） －医動物担当で行った同定検査－	1
食品の苦情品等検査（令和5年度） －食品添加物担当で行った理化学検査－	2
ミネラルウォーター類の検査結果（令和5年度）	8

【情報提供】

衛生研究所ウェブページ情報（令和6年4月）	12
-----------------------------	----

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和6年4月）	13
----------------------------	----

* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

食品中の異物検査結果（令和5年度）

－医動物担当で行った同定検査－

医動物担当では、人の健康を害する、または不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受けて、昆虫類を中心に食品へ混入した異物の検査を行っています。種類を同定することによって、発生源などが分かり、混入経路の推定につながります。


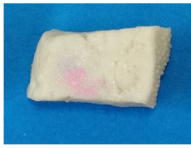
令和5年度の食品中異物検査実績は昆虫類4件（ハエ目2件、チョウ目1件、コウチュウ目1件）でした。検査結果の詳細は次のとおりです。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
購入した総菜パン(自家製豚ハム入り)に幼虫が混入していた。 (5月)	 幼虫、乳白色、約11mm	ヒロズキンバエ (ハエ目)	幼虫は動物の死体、塵芥、動物の糞などから発生する。成虫は、人家周辺、ゴミ処理場などでみられる。日本に広く分布する。
購入した精米に虫が混入していた。 (6月)	 幼虫、黄褐色、約20mm	イッテンコクガ (チョウ目)	成虫の発生は年に1～2回。幼虫は小麦、大豆等、穀類とその加工品を加害する。
	 成虫、赤褐色、約3mm	ヒラタコクヌストモドキ (コウチュウ目)	穀粉害虫として最も普通にみられる種。植物質から動物質まで様々な食品を加害する。
購入した総菜パンにコバエが混入していた。 (9月)	 成虫、褐色、約2mm	ノミバエ科の一種 (ハエ目)	多くは野外性であるが、屋内でも普通にみられる。敏しように動き、食卓や台所を歩き回る。幼虫は腐敗した動植物質、漬物、ごみなどから発生する。

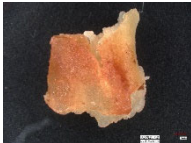


食品の苦情品等検査（令和5年度）

－食品添加物担当で行った理化学検査－

令和5年度、各区福祉保健センター等に届けられた食品に関する苦情品等で、原因究明のために検査依頼があったのは、16件22検体(参考品を含む。)でした。相談の内容は様々ですが、異物混入が多数を占めました。検査結果は次のとおりです。


検体名	事故・苦情等理由	試験項目	試験結果
ヨーグルト中の異物 	ヨーグルトに蜂蜜ときな粉をかけて食べようとしたところ、クリーム色の異物を発見した。	外観 マイクロスコープ 赤外分光分析 HPLC分析 溶解性 結果	上面の直径8mm、底面の直径11mm、高さ18mm、重さ1.2g、中央に直径3～7mmの空洞がある円錐台型の黄白色異物。 表面は平滑で、黄白色と白色の箇所が混在していた。一部をカッターで削り観察したところ、白色透明結晶を認めた。 糖類に類似した赤外吸収スペクトルを認めた。 ブドウ糖81.7%、果糖15.2%、ショ糖0.3%を検出した。 水に可溶。 糖類(ブドウ糖、果糖等)が固まったものと推定された。蜂蜜中の糖類が析出して乾燥したものである可能性が考えられた。
豆腐の変色 	給食室で調理した味噌汁の豆腐が一部変色していた。	外観 マイクロスコープ 蛍光物質 元素分析 溶解性 結果 備考	大きさ約1.0×1.0×1.5cm、重さ約1g、一部にピンク色の着色を認めた。着色は数日で薄くなった。 着色部は製品を切断したと思われる面に認められた。拡大して観察したところ、着色は表面に薄く滑らかに広がっており、菌糸等の特徴的な構造は認められなかった。 紫外線を照射したところ、着色部に蛍光を認めた。 主元素として炭素、窒素、酸素を認めた。また、付着物の一部にアルミニウムとケイ素を認めた。 塩酸酸性にした50%エタノールにより、着色成分が抽出された。 蛍光着色料が付着したと推定された。 酸性条件下で抽出されたことは、アルミニウムレーキの特徴と一致した。しかし、夾雑物の影響も大きく、色素の特定には至らなかった。

検体名	事故・苦情等理由	試験項目	試験結果
肉まん中の異物 	肉まんを喫食中に繊維状の異物を発見した。	外観 顕微鏡 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 結果	大きさ約8×8×7mm、重さ約20mg、茶色で扁平物が丸まった形状の硬質異物。水で濡らすと柔らかくなり、2つに分かれた。それぞれを広げたところ、大きさはどちらも約15×8mmで、厚さは0.3mmと1.2mmであった。 水洗浄前後どちらもスジ状の構造が観測された。高倍率で透過光により観察したところ、植物の細胞壁のような構造を認めた。 随所に細長い植物の細胞壁のような構造を認めた。 炭素及び酸素の元素を認めた。 セルロースと類似の赤外吸収スペクトルを認めた。 植物片と推定された。異物は玉ねぎの外側の保護葉である可能性が考えられた。
金属様硬質異物 	給食の白飯を喫食中に金属様異物を発見した。	外観 顕微鏡 電子顕微鏡 元素分析 磁性 結果	大きさ6×3mm、重さ5.4mg、らせん状にねじれたテープ状の銀色の硬質異物。テープは幅1mm、厚さ0.2mmでほぼ一定であった。水に入れると沈んだ。一定方向に細かなスジがあり、金属光沢のある滑らかな面が観察された。反対面は、うろこ状でざらついた面が観察された。縁は、削られたようにギザギザとした形状が観察された。 凹凸が少なく、一定方向に細かなスジが観察された。反対面は波状に積層する構造が観察された。 鉄、クロム、ニッケル及びマンガンの元素を認めた。 磁性を認めた。 ステンレス製の金属片と推定された。
みそ汁中の異物 	給食のみそ汁を喫食中に白色異物を発見した。	外観 顕微鏡 電子顕微鏡 赤外分光分析 熱分解 GC/MS 分析 結果	大きさ①1.6×1.1mm、②1.9×0.9mm、③2.0×1.6mm、④2.2×2.1mm、⑤2.9×2.0mm、重さの合計6mg、白色の不定形異物5片。水に入れると浮いた。 全体的に白く、所々に薄茶色の箇所を認めた。片面は細かな凹凸があり、ざらついていた。もう片面は比較的滑らかで、一方向に走るスジを認めた。 細長い繊維が密集しており、網目状の構造を認めた。 ポリエチレンと類似の赤外吸収スペクトルを認めた。 ポリエチレンと類似のパイログラムを認めた。 ポリエチレン樹脂の破片と推定された。

検体名	事故・苦情等理由	試験項目	試験結果
餃子中の異物 	チルド餃子を喫食中に骨のような異物を発見した。	外観 顕微鏡 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 ヨウ素デンプン反応 結果	大きさ約10×7×2mm、重さ0.12g、薄茶色の硬質異物。異物は水に沈み、膨張して軟化した。表面は淡黄色～濃茶色で色ムラがあり、反対面は主に白色で凹凸の多い構造であった。デンプン粒を多数認めた。炭素及び酸素の元素を認めた。小麦粉と類似の赤外吸収スペクトルを認めた。陽性 小麦粉の固まりと推定された。餃子の皮の可能性が考えられた。
ツナそぼろ中の異物 	給食のツナそぼろ中に糸状の異物を発見した。	外観 顕微鏡 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 ルミノール反応 結果	大きさ約4×1mmと3×1mm、重さ合計1.3mgの黒色異物。黒色の円柱状物の両側面に、白色のスジが付着していることが観察された。表面に細かい凹凸が認められた。断面を観察したところ、黒色の円柱状物は中心部も均一であったが、白色の筋は空洞であることが観察された。いずれの部位も主元素として炭素、窒素、酸素及び硫黄を認めた。タンパク質と類似の赤外吸収スペクトルを認めた。陰性 タンパク質が固化したものと推定された。
給食中の異物 	給食を喫食中に口内から硬質異物を発見した。	外観 顕微鏡 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 結果	大きさ約3×3mm、重さ11mg、乳白色の硬質異物。一部黒色や茶色の箇所も見られた。表面は全体的に凹凸があり、所々に異物の内部から無色透明の繊維状物が飛び出している様子が見られた。繊維状物を取り出して観察したところ、直径が約十数μmで表面は平滑であった。表面は滑らかな凹凸の中に多孔質な構造が見られた。繊維状物は異物の表面に付着しているのではなく、内部から伸びている様子が観察された。炭素、酸素、リン、カルシウム等の元素を認めた。繊維状物からは炭素、酸素だけを認めた。歯や骨と類似の赤外吸収スペクトルを認めた。歯または骨の欠片と推定された。

検体名	事故・苦情等理由	試験項目	試験結果
給食中の異物 	給食からプラスチック片様の異物を発見した。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 結果	大きさ3.0×2.5mm、重さ15mg、乳白色の不定形の異物。表面に極細かい繊維が多数付着していたが、水及びエタノールで洗浄すると表面の繊維は無くなった。水及びエタノールに入れると沈んだ。 表面は乳白色半透明で光沢があり、所々に白色不透明な部分が観察された。また、全体に方向が異なるスジ状の構造が観察された。 一方向の多数のスジ及び点在する孔が観察された。 炭素、塩素及び酸素の元素を認めた。 塩化ビニル樹脂と類似の赤外吸収スペクトルを認めた。 塩化ビニル樹脂のプラスチック片と推定された。
ケーキの変色 	購入した冷凍ケーキ(ベリー果実使用)のスポンジ部分にカビのような箇所を発見した。	外観 マイクロスコープ pHによる変化 結果	スポンジ部分に約2mmの緑色に変色した箇所を2点認めた。 変色箇所を観察したところ、青紫色の固形物が付着し、周囲に色素が染み出た様子が観察された。なお、菌糸等の特徴的な構造は認められなかった。 スポンジ部にケーキに使用された果実及びその果汁を付着させた後、アンモニア水溶液を滴下したところ、変色箇所と類似の色調に変化した。 ケーキに使用された果実のアントシアニン由来と推定された。
木綿豆腐中の異物 	購入した豆腐の容器の底に黒色異物を発見した。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 磁性 結果	開封していない木綿豆腐の容器内側の底に米粒程度の黒色異物1個を認めた。異物を取り出し乾燥させると、大きさ約3×3mm、重さ0.3mgであった。異物は乾燥状態では非常にもろく、ごくわずかな力で砕けた。異物は水に入れると沈んだ。 全体的に褐色～黒褐色で、細かな凹凸のある表面であった。 全体的に細かな凹凸があり、所々に多くの微小な円形の窪みが観察された。なお、菌糸等の特徴的な構造は認められなかった。 炭素、酸素及び窒素の元素を認めた。 タンパク質と類似の赤外吸収スペクトルを認めた。 磁性は認められなかった。 タンパク質を含む有機物の固まりと推定された。

検体名	事故・苦情等理由	試験項目	試験結果
スイセンによる 食中毒 	自宅の庭に生えていたスイセンをニラと間違えて喫食し、胃腸炎症状を発症したことから、採取残品の植物同定が依頼された。	外観 LC/MS分析 遺伝子解析 結果	搬入された採取残品は長さ3～5cm、太さ1cm程度の長ネギ様の植物の茎3個。ニラ様の臭いはなく無臭であり、球根はスイセンに類似していた。 スイセンの有毒成分であるリコリン190µg/g、ガラントミン2.6µg/gを検出した。 ダイレクトシーケンス法による遺伝子解析の結果、スイセンの遺伝子と一致した。 スイセン属と同定した。
カレービーンズシチュー中の異物 	給食のカレービーンズシチュー中に毛のような異物を発見した。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 キサントプロテイン反応 結果	長さ約7mmでわずかに黄味がかかった繊維状硬質異物。 直径が0.20～0.25mm、断面は円形で、表面は滑らかであった。高倍率に拡大して観察したところ、表面の円周方向に連続した波状の模様が観察された。 波状の模様は、数µmの間隔で異物の表面全体に見られた。 炭素、酸素、窒素、硫黄の元素を認めた。 タンパク質と類似の赤外吸収スペクトルを認めた。 陽性 構成成分として芳香族アミノ酸を含むタンパク質であると推定された。
甘鯛西京焼 	冷凍おせち料理中の甘鯛西京焼を喫食したところ、口がピリピリしたことから、ヒスタミンの検査が依頼された。	LC/MS分析	残品についてヒスタミンの定量を行ったところ、不検出(検出限界:5mg/100g)であった。
太巻き中の異物 	購入した太巻きを喫食中に硬い異物を発見した。	外観 マイクロスコープ 元素分析 赤外分光分析 ヨウ素デンプン反応 結果	大きさ4×3mm、重さ11mg、白色半透明の不定形の固い異物。水に沈み、軟化し、粘着性が認められた。乾燥すると固化した。 白色半透明で光沢があり、表面に細かい凹凸が観察された。 炭素及び酸素の元素を認めた。 デンプンと類似の赤外吸収スペクトルを認めた。 陽性 米粒と推定された。

検体名	事故・苦情等理由	試験項目	試験結果
月餅中の異物 	購入した月餅を 喫食中に木片様 異物を発見した。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 リグニン(木質 素)反応 くるみ(DNA) 結果	長さ20mm、重さ64mg、乾燥した茶褐色の硬質異物。水に入れると浮いた。 表面は所々にしわが寄っていて、長尺方向に沿って繊維様の模様が見られた。 複数の層が重なった構造や細孔が観察された。 主元素として炭素、酸素と微量のカリウムを認めた。 木と類似の赤外吸収スペクトルを認めた。 陽性 くるみの検知を目的としたリアルタイムPCR-H法による定性試験を行ったところ、陽性であった。 くるみの殻(核果)であると推定された。

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

ミネラルウォーター類の検査結果（令和5年度）

カビの発生や臭素酸などが基準値超過で回収されるミネラルウォーター類の事例が報道されています。本市に相談が寄せられたときに対応できるよう、ミネラルウォーター類の水質に則した検査法の標準実施作業書の整備や妥当性確認を順次進めています。当所では令和5年度にシアン及び臭素酸の妥当性確認を行い検査項目に追加しました。令和5年度のミネラルウォーター類の検査結果を報告します。



なお、令和5年10月、鉛の基準値が「0.01mg/L以下であること」に改正されました。告示の日から6ヶ月が経過したため令和6年度は鉛の基準値が強化されました。

1 ミネラルウォーター類の4試料(A~D)の概要

ミネラルウォーター類(水のみを原料とする清涼飲料水をいう)4試料(A~D)の品名や水源の採水地などの概要を表1に示しました。いずれも天然炭酸が含まれている試料もしくは炭酸(二酸化炭素)が圧入され発泡性を有する試料ではありませんでした。試料の収去は令和5年8月及び11月に各区福祉保健センターが行いました。

表1 試料の概要

(令和5年度)

試料番号	A	B	C	D
品名(名称)*1	ナチュラルミネラルウォーター	ナチュラルミネラルウォーター	ナチュラルミネラルウォーター	スプリングミネラルウォーター
採水地 原産国名	日本	日本	日本	アメリカ合衆国
水源	天然水	天然水	天然水	天然水
原材料名	水(鉱水)	水(鉱水)	水(鉱水)	水(湧水)
「殺菌又は除菌*2を行っていない」表示*3の有無	表示なし	表示なし	表示なし	表示なし
「高濃度フッ素」表示*4の有無	表示なし	表示なし	表示なし	表示なし
ボトル包装	PET	PET	PET	PET
栄養成分表示(100mL当り)	ナトリウム:1.1mg 食塩相当量:0.003g	食塩相当量:0g	ナトリウム:1.0mg 食塩相当量:0g	ナトリウム:1.13mg 食塩相当量:0.003g

*1:名称を炭酸飲料と表示している製品の中にも水道水などに二酸化炭素を圧入する方法で製造された(二酸化炭素圧力0.29MPa以上)製品があり、原材料名が水/炭酸(二酸化炭素)と表示されます(食品表示基準 別表第3、第4)。

*2:「殺菌又は除菌を行う」とは加熱殺菌・オゾン殺菌・紫外線殺菌・フィルター除菌の4つを指します(厚生労働省医薬食品局食品安全部監視安全課長通知 食安監発1128第2号 平成24年11月28日)。

*3:二酸化炭素圧力が摂氏20度で0.098MPa未満であって、殺菌又は除菌を行わないものにあつては殺菌又は除菌を行っていない旨を表示すること(食品表示基準 別表第19)。

*4:フッ素濃度が0.8mg/Lを超えるミネラルウォーター類に表示する。「7歳未満の乳幼児は、このミネラルウォーターの飲用を控えてください。(フッ素濃度〇mg/L)」(厚生省生活衛生局食品保健課長通知 衛食第214号 平成6年12月26日)

2 ミネラルウォーター類の規格基準項目の検査結果

ミネラルウォーター類の規格基準項目の検査結果を表2に示しました。アンチモンは試料B、ヒ素は試料C・D、臭素酸は試料D、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素は試料A・B・C・D、フッ素は試料A・C・Dから検出されました。規格基準値を超過した試料はありませんでした。フッ素に設定されている7歳未満の乳幼児への注意喚起に関する値(0.8mg/L)を超過した試料はありませんでした。

表2 ミネラルウォーター類の規格基準項目の検査結果

(令和5年度)

規格基準値	定量下限値	試料番号			
		A	B	C	D
アンチモン 0.005mg/L以下であること	0.0005	N.D.	0.0012	N.D.	N.D.
カドミウム 0.003mg/L以下であること	0.0003	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
水銀 0.0005mg/L以下であること	0.00005	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
セレン 0.01mg/L以下であること	0.001	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
銅 1mg/L以下であること	0.01	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
鉛 0.05mg/L以下であること*	0.001	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
バリウム 1mg/L以下であること	0.1	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
ヒ素 0.01mg/L以下であること	0.001	N.D.	N.D.	0.0038	0.0011
マンガン 0.4mg/L以下であること	0.005	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
六価クロム 0.02mg/L以下であること	0.002	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
塩素酸 0.6mg/L以下であること	0.06	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
シアン (シアンイオン及び塩化シアン) 0.01mg/L以下であること	0.001	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
臭素酸 0.01mg/L以下であること	0.001	N.D.	N.D.	N.D.	0.0053
亜硝酸性窒素 0.04mg/L以下であること	0.004	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 10mg/L以下であること	0.1	0.91	2.2	0.54	0.13
フッ素 2mg/L以下であること	0.08	0.17	N.D.	0.094	0.19
ホウ素 5mg/L以下であること	0.05	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
有機物(全有機炭素) 3mg/L以下であること	0.3	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
色度 5度以下であること	0.5	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
濁度 2度以下であること	0.1	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.

N.D.: 定量下限値未満 単位: 色度、濁度を除きmg/L

*: 令和6年度は鉛の基準値が「0.01mg/L以下であること」に改正されました

3 ミネラルウォーター類の規格基準が設定されていない項目の検査結果

規格基準が設定されていない元素などの検査結果を表3に示しました。液性を表すpHについては、試料A～Dは発泡性がなく炭酸ガスが含まれていないためpH7.3～pH7.8でした。バナジウム、ストロンチウム、ケイ素、リチウム、塩化物イオン、硫酸イオンなどが検出されました。ナトリウムは11mg/L～14mg/L、硬度は16mg/L～65mg/Lでした。

4 ミネラルウォーター類のボトル包装の情報提供表示など記載例

ボトル包装の情報提供表示など記載例を図に示しました。多くのミネラルウォーター類に含まれている硝酸性窒素について定量下限値未満(ゼロ)であることを強調している製品があります。規格基準が設定されていませんが、液性については「アルカリ性・アルカリイオン」といった情報提供が表示されることがあります。また、マグネシウム、サルフェート(硫酸イオン)、シリカ(例:SiO₂)、バナジウムなどの元素成分量に関する情報や軟水・硬水といった硬度に関する情報が記載されている製品もあります。ナトリウムは栄養成分表示として食塩相当量(ナトリウムの量に換算できます)が表示されます。

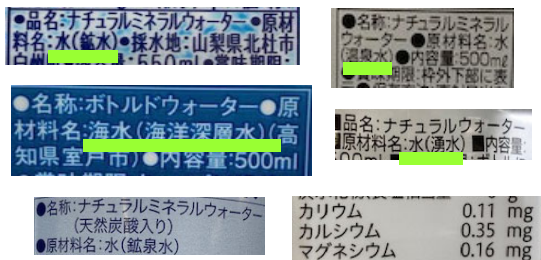
表3 ミネラルウォーター類の規格基準が設定されていない項目の検査結果

(令和5年度)

検査項目	定量下限値	試料番号			
		A	B	C	D
アルミニウム	0.01	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
バナジウム	0.004	N.D.	N.D.	N.D.	0.059
鉄	0.01	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
コバルト	0.004	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
ニッケル	0.001	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
亜鉛	0.005	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
ストロンチウム	0.01	0.063	0.054	0.034	0.068
モリブデン	0.007	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
銀	0.01	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
ケイ素	0.01	16	10	6.8	28
ウラン	0.0002	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
リン	0.015	0.057	0.020	0.16	0.17
スズ	0.003	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
リチウム	0.01	N.D.	N.D.	N.D.	0.020
ナトリウム	2.0	14	12	13	11
アンモニア態窒素	0.1	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
カリウム	0.1	0.96	0.60	1.2	1.3
マグネシウム	0.1	2.9	3.6	1.7	5.4
カルシウム	0.1	9.0	20	3.7	6.1
硬度	1.0	34	65	16	38
塩化物イオン	0.25	6.8	7.3	3.4	0.90
臭化物イオン	0.5	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
リン酸イオン	1.0	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
硫酸イオン	0.5	13	24	5.6	2.1
pH	----	7.4	7.8	7.3	7.3

N.D.: 定量下限値未満 単位: pHを除きmg/L

品名、原材料名



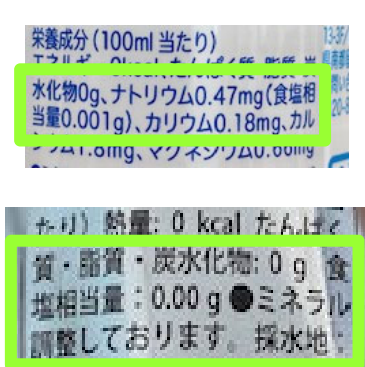
注: ミネラルウォーター類と呼ばれる水のみを原料とする容器詰めされた飲用水は、品質表示ガイドライン(平成7年2月17日 食品流通局長通達)では4種類(ボトルドウォーター、ミネラルウォーター、ナチュラルウォーター、ナチュラルミネラルウォーター)に分類されます。

殺菌・除菌、加熱の有無

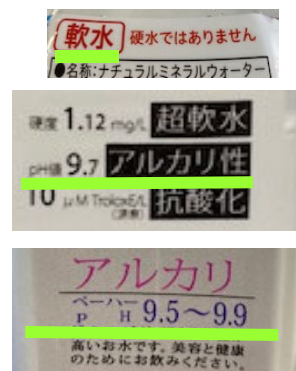
pH値: 7.46 硬度: 250mg/L
 ●衛生基準をクリアした水源より採水。殺菌・除菌はしていません。●開栓後はすぐにお飲みください。●加熱、凍結、長期保存等により品質が低下する場合がございます。



食塩相当量、ミネラル調整



液性、硬度



フッ素に関して

天然の地下水を厳しい衛生管理のもとでボトリングしていますので殺菌、除菌はしていません。7歳未満の乳幼児はこのミネラルウォーターの飲用を控えてください。(フッ素濃度1.0mg/L)

規格基準が設定されていない元素など

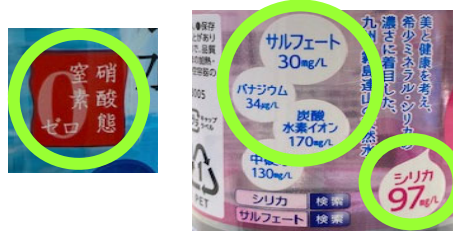


図 ボトル包装の情報提供表示など記載例(検査した試料とは関係ありません)

ミネラルウォーター類の自主回収あるいは回収が命令された報道が散見されます。異味・異臭・異物の混入などの異常が感じられた際は保健所(各区福祉保健センター)にご相談ください。

衛生研究所ウェブページ情報（令和6年4月）

横浜市衛生研究所ウェブページは、平成10年3月に所独自のウェブサイトとして開設されました。現在は、本市ウェブサイトと統合され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。今回は、当ウェブページにおける令和6年4月の追加・更新記事について報告します。

1 追加・更新記事

令和6年4月に追加・更新した主な記事は、3件でした。

掲載月日	内容
4月4日	横浜市インフルエンザ流行情報 28号
4月15日	感染症に気をつけよう(4月号)
4月17日	横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果

2 記事紹介

横浜市インフルエンザ流行情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/rinji/influenza-rinji-2023.html>

感染症に気をつけよう

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shimin/kiwotukekyou.html>

横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/byogentai/covid-19genome.html>

【 感染症・疫学情報課 】

横浜市感染症発生動向調査報告（令和6年4月）

《今月のトピックス》

- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎やRSウイルス感染症など、患者が多く発生しています。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心に、幅広い年齢層で患者が多く発生しており、注意が必要です。先天梅毒も報告されています。
- 海外渡航の際は、食べ物や水、動物や蚊・マダニ対策など、予防と準備を忘れずに行いましょう。

◇ 全数把握の対象 <2024年3月18日～4月21日に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	3件	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	6件
腸チフス	1件	急性脳炎	1件
E型肝炎	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6件
エムボックス	2件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1件
デング熱	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	5件
レジオネラ症	4件	水痘(入院例に限る)	3件
アメーバ赤痢	3件	梅毒	29件
ウイルス性肝炎	1件	百日咳	2件

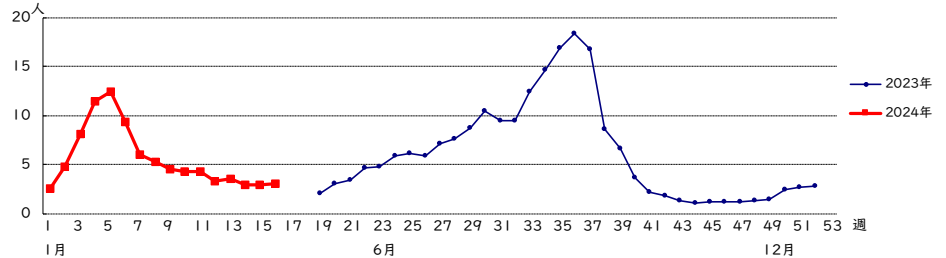
1. **腸管出血性大腸菌感染症**:20歳代～60歳代で、O血清群はO26が2件、不明が1件です。いずれも感染経路等は不明です。
2. **腸チフス**:60歳代で、感染経路等不明です。
3. **E型肝炎**:70歳代で、経口感染と推定されています。
4. **エムボックス**:いずれも40歳代で、性的接触(異性間)と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
5. **デング熱**:20歳代で、国外での動物・蚊・昆虫等からの感染と推定されています。
6. **レジオネラ症**:40歳代～60歳代で、水系感染または塵埃感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が3件です。
7. **アメーバ赤痢**:50歳代～70歳代で、経口感染と推定される報告が1件、性的接触(異性間)と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
8. **ウイルス性肝炎**:30歳代で、病原体はEBVです。感染経路は性的接触(異性間)と推定されています。
9. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:10歳代～90歳代で、いずれも感染経路等不明です。
10. **急性脳炎**:20歳代で、病原体は不明です。感染経路等も不明です。
11. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:40歳代～80歳代で、血清群はA群が5件、G群が1件です。感染経路はいずれも創傷感染と推定されています。
12. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:30歳代で、感染経路は性的接触(異性間)と推定されています。
13. **侵襲性肺炎球菌感染症**:50歳代～90歳代(ワクチン接種歴1回有1件、無2件、不明2件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が4件です。
14. **水痘(入院例に限る)**:10歳未満～70歳代(ワクチン接種歴2回有1件、不明2件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が2件です。
15. **梅毒**:10歳未満～80歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期8件、早期顕症梅毒Ⅱ期9件、無症状病原体保有者11件、先天梅毒が1件です。性的接触による感染と推定される報告が26件(異性間20件、同性間1件、異性間・同性間2件、詳細不明3件)、母子感染1件、感染経路等不明の報告が2件です。
16. **百日咳**:10歳未満～30歳代(ワクチン接種歴4回1件、不明1件)で、家庭内感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。

◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
2024年第12週	3月18日～3月24日
第13週	3月25日～3月31日
第14週	4月1日～4月7日
第15週	4月8日～4月14日
第16週	4月15日～4月21日

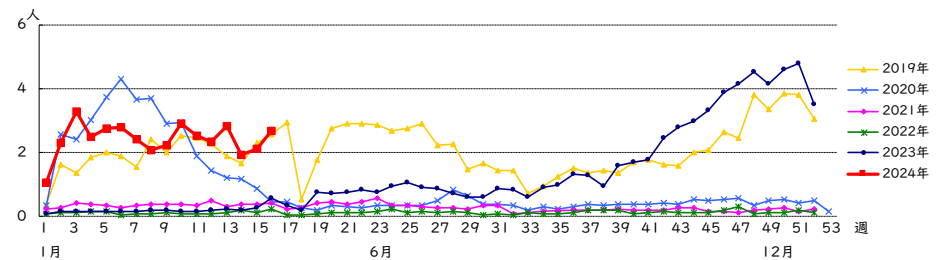
1 新型コロナウイルス感染症

2024年第5週(12.45)をピークに減少し、その後横ばいの状態で推移しています。第16週は3.05です。



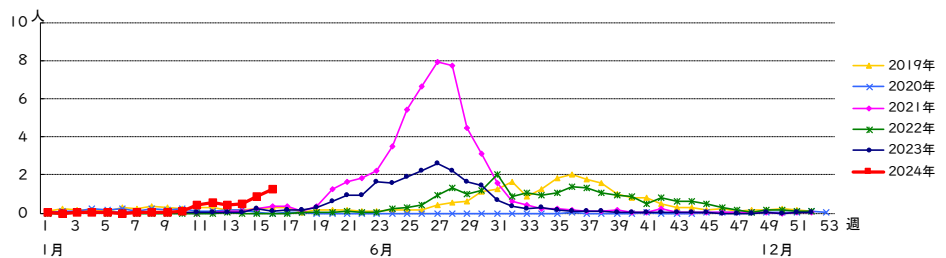
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2024年第16週は2.67で、第14週以降増加が続きます。過去5年間の同時期と比較し、患者数が多い状態で推移しています。



3 RSウイルス感染症

2024年第11週以降増加傾向がみられ、第16週は1.28となっています。過去5年間の同時期と比較し、患者数がやや多い状態で推移しています。



4 性感染症(2024年3月)

性器クラミジア感染症	男性:37件	女性:15件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:12件	女性:11件
尖圭コンジローマ	男性:10件	女性:3件	淋菌感染症	男性:16件	女性:3件

5 基幹定点週報

	第12週	第13週	第14週	第15週	第16週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(2024年3月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	16件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	1件	-	-

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2024年第12週～第16週に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点50件、内科定点10件、基幹定点3件、定点医療機関外3件でした。

5月1日現在、表に示した各種ウイルスの分離21株と遺伝子21件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果（2024年第12週～第16週）

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	低月齢発熱	ウイルス感染症
インフルエンザウイルス AH1pdm09	3 -	- 1			
インフルエンザウイルス AH3型	1 -				
インフルエンザウイルス B型（ビクトリア系統）	12 -	2 -			
ヒトメタニューモウイルス			- 7		
ヒトコロナウイルス HKU1型		- 1	- 1	- 1	
ヒトコロナウイルス NL63型			- 1		
ヒトコロナウイルス 229E型					- 1
アデノウイルス 2型		1 -			
アデノウイルス 3型		1 1			
パラインフルエンザウイルス 3型	- 1	- 1	- 1		
RS ウイルス		- 1	- 1		
ライノウイルス		- 2			
ヘルペスウイルス 1型			1 -		
合計	16 1	4 7	1 11	- 1	- 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2024年第12週～第15週の「菌株同定」の検査依頼は、基幹定点医療機関からサルモネラ症2件、コレラ疑い1件、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1件でした。保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症1件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症18件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症5件、侵襲性肺炎球菌感染症1件でした。

「分離同定」の検査依頼は、基幹定点からボレリア感染症疑い4件、敗血症起因菌遺伝子検索2件、保健所からレジオネラ症2件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼はありませんでした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2024年第12週～第15週)

菌株同定		項目	検体数	血清型等	
医療機関	基幹定点	サルモネラ症	2	<i>Salmonella</i> Schwarzengrund (1) <i>Salmonella enterica</i> subsp. <i>enterica</i> O4群 (1)	
		コレラ疑い	1	<i>Vibrio cholerae</i> O1 コレラトキシン非産生 (1)	
		メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1	<i>Staphylococcus aureus</i> (1)	
		腸管出血性大腸菌感染症	1	O26:H11 VT1 (1)	
保健所		カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	18	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (14)、 <i>Escherichia coli</i> (2) <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1) <i>Citrobacter freundii</i> complex (1)	
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5	A群溶血性レンサ球菌 T4型 (2) A群溶血性レンサ球菌 T1型 (1) A群溶血性レンサ球菌 T22型 (1) G群溶血性レンサ球菌 (1)	
		侵襲性肺炎球菌感染症	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (1)	
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等	
医療機関	基幹定点	血液	ボレリア感染症疑い	1	ライム病、回帰熱ボレリアPCR 陰性 (1)
		血清、髄液		3	ライム病、回帰熱ボレリアPCR 陰性、抗ボレリア抗体 陰性 (3)
		血液培養ボトル	敗血症(細菌遺伝子検索)	2	16S rRNA遺伝子 PCR 陰性 (2)
保健所	喀痰	レジオネラ症	2	<i>Legionella pneumophila</i> SG13(1) 培養陰性 (1)	
小児サーベイランス	材料	臨床症状	検体数	同定、血清型等	
小児科定点	なし				

【 微生物検査研究課 細菌担当 】